

「家がいいね」 第222号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2022. 11. 1



季節は秋から冬へ。木枯しが来る前に、近所の木が準備を始めたようです。梢から葉を落として黄葉も下降します。枝の中の水位も下がって来たのでしよう。萌えの時の逆で、水と命の駆け引きの姿です。これが巡る季節の光景ですね。

中村哲さんという、生き方



アフガニスタンの河を背景に、地元民と共に作り上げた堰の前の中村さんの写真です。3年前の12月4日現地で襲撃され73歳で亡くなりました。登山好きな38歳の医師がパキスタンの地ペシャワールで働き始め、20年をハンセン病の診療活動に従事。

その仕事は民の生活のために井戸の掘削に向き、温暖化で涸れる水を追いかけ、砂漠の灌漑事業に拡がりました。命の水を地域が手にする目標です。彼は宮沢賢治の童話の「ゴーシュ」に自らを例えています。ヘタなセロの練習中に、様々な訪問者に対応するうちに、自然に導かれたと。医療とは医療の外にあるものに柔軟に対応しないと本来の幸福の目標に辿り着かないあと、私も思います。

中村哲
Nakamura Tetsu

わたしは「セロ弾きのゴーシュ」

人が生きて、死ぬことの意味を、日本人は忘れていくんじゃないかという気がするんです

アフガニスタンで65万人の命をつなぎ、凶弾に倒れた医師は、何を語ったのか。

中村哲が本当に伝えたかったこと

終活よりも、引き継ぎ事項と考えたら

今の世は便利に、個々にも都合よい工夫があると思われ、百歳でも明日死ぬという実感が無くなったようです。そのゴールが目前に迫って慌てることになりました。終活・断捨離・人生会議など間際の対応では、そりゃ無理が当たり前ですよ。古(いにしえ)の時間感覚を探ると、20年を区切つての伝承(遷宮や、孫が生まれた時点での隠居や若年寄などが在ります。人生は短いと考え、「今お前に伝えておくから、確認しておきなさい」と日常生活のバトンタッチを進めたものでしょう。

安全に、おしゃべりすることが大事ですね



がん患者と家族のおしゃべりサロン in 伊勢

お話を聞いたり、悩みを話したり、一人で悩まず一緒に話しましょう。

とき 10月20日(木)・11月17日(木)・12月15日(木)・令和5年1月19日(木)・2月16日(木)・3月16日(木)・13時30分～15時30分

ところ 福祉健康センター・1階

対象 がん患者、またはその家族

申し込み 各開催日の前日までに、電話で三重県がん相談支援センター(☎059-912-2311・616)

臨時休診します

日本死の臨床研究会(全国大会)出席のため11月26日(土)は休ませていただきます。この会場は、津市の県総合文化センターです。

年末年始のお知らせ

12月29日(木)～1月3日(火) 外来休診
在宅患者さんには対応。よろしくお願ひします。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可